

平成13年3月29日

(株) 日立製作所と蛋白質の機能解析について委託契約を締結

小野薬品工業（株）プロテオーム創薬に本格参入 自社保有の創薬ターゲット遺伝子の大規模解析開始

ヒトゲノム（全遺伝子情報）の構造が解読・公開され、世界的にポストゲノムは、それぞれの遺伝子が作り出す蛋白質の性質や機能の解明にしのぎを削るプロテオミクス時代へと進んでいます。

小野薬品は約10年前からゲノム創薬研究を開始し、これまでに米国のバイオ企業であるジェネティクス・インスティテュート社（GI社：マサチューセッツ州ボストン）との共同研究から、両社の共同資産として約420個の創薬ターゲット遺伝子（細胞から分泌される蛋白質に限定）を保有するに至っています。

これらの遺伝子が作り出す蛋白質の機能解析をGI社、大学などの研究機関と共同で進めてきた結果、約15個の遺伝子について機能解析を終了し、既に5つの遺伝子についてはAIDSや癌、リウマチなどの自己免疫疾患、更には泌尿器疾患との関連性を見出しています。そのうち2種類の医薬品の候補物質（リード化合物）を取得し、現在、2～3年後の臨床試験の開始を目指し動物実験を行っています。

解析の終了していない約400個の遺伝子については、早急に機能を解明することが重要であり、そのために小野薬品は平成13年3月28日、日立製作所（ライフサイエンス推進事業部）と、蛋白質間の相互作用を解析する最先端技術を活用した蛋白質の機能解析に関する契約を締結しました。

本契約により、小野薬品は自社が保有する遺伝子情報に基づき日立製作所に機能解析を委託します。又、解析作業から得られた特許性の高い成果情報については小野薬品は日立製作所に成功報酬を支払い、他社に先駆け戦略的な知的所有権の取得を目指します。

今回、小野薬品が活用する日立製作所の蛋白質の機能解析技術は、蛋白質間の相互作用を工業スケールの酵母・ツー・ハイブリッド法により幅広く且つ大量に探索出来るもので、日立製作所が米国Myriad社から技術導入したものです。この解析により小野薬品は保有する遺伝子が疾患に対してどのように関与しているかという情報を正確且つ迅速に知る事が出来ます。

小野薬品はすでに動物およびヒト組織を用いた病態モデルにおける遺伝子の発現解析などについて、国内外のベンチャー企業とターゲットを絞った委託研究を進めておりますが、今後、小野薬品が保有する遺伝子が作り出す蛋白質の機能解析を日立製作所に委託することで、当社のゲノム創薬・プロテオーム創薬開発はさらに加速するものと期待しております。

小野薬品工業株式会社
広報室
